

# 1919年三・一独立運動90周年記念のつどい

## パネルディスカッション その歴史的意義と今日的課題

～アジアの人びとと歴史認識の共有を目指して～

第一次世界大戦後の民族独立を求める世界的な動きの中で東アジアでは、日本の朝鮮植民地支配に対する1919年三・一独立運動や中国の五・四運動が起こりました。この三・一独立運動の歴史的意義を、世界史的な視点と米騒動など日本での運動を含めて捉えると共に、六者協議と日朝国交正常化、「9条国際公約説」など今日的課題とも合わせて考えてみたいと思います。

日 時 2009年3月1日(日)

午後1時開場、1時半開会

場 所 在日本韓国YMCA スペースY文化センター

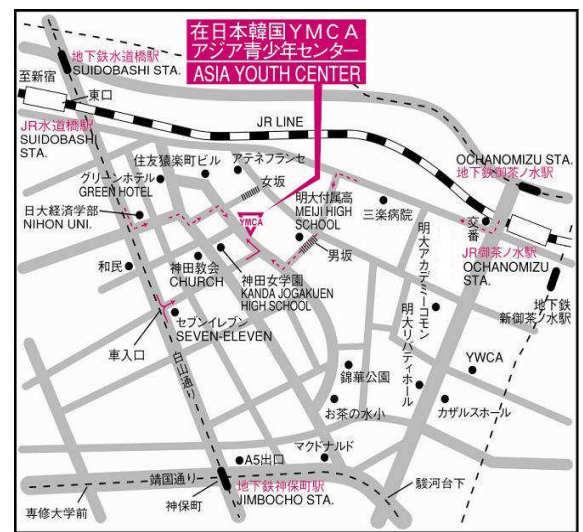
〒101-0064 東京都千代田区猿楽町2-5-5

TEL: 03-3233-0611 FAX: 03-3233-0633

JR 水道橋駅徒歩6分、御茶ノ水駅徒歩9分、

地下鉄神保町駅徒歩7分、

三・一独立宣言の導火線とも言われる1919年2月8日、当時の留学生らによる二・八独立宣言書の現場、二・八独立宣言記念資料室もあり、当日は10時から見学可能です。



パネリスト 趙景達(チョ・ギョンドル)氏(千葉大学教授、近代朝鮮の民衆運動史、政治思想史)

畑田重夫氏(国際政治学者)

緒方靖夫氏(日本共産党副委員長、同国際局長、前参議院議員)

文化行事 金順子(キム・スンジャ)さん((社)韓国国楽協会日本東京支部長)による鎮魂の舞、他

資料代 1,000円

来賓 在日本朝鮮人総連合会、在日本大韓民国民団(ともに予定)

呼びかけ人(五十音順)

大日方純夫・早稲田大学文学学術院教授、佐藤光雄・日本平和委員会代表理事、大黒作治・全国労働組合総連合議長、高田公子・新日本婦人の会会長、長尾光之・日本中国友好協会会長、西野瑠美子・女たちの戦争と平和資料館前館長、畑田重夫・国際政治学者、松井繁明・自由法曹団団長、柳沢遊・慶応義塾大学教授、山口啓二・東京大学、名古屋大学元教授、山田朗・歴史教育者協議会委員長、渡辺貢・日朝協会会長、

賛同金にご協力ください

一口1,000円

郵便振替 00180-7-18851 日朝協会事務局

\*「三・一独立運動90周年記念のつどい」賛同と明記して下さい

事務局団体 日朝協会、同東京都連合会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-11-13-501

TEL: 03-3237-1991

FAX: 03-3230-2382

mail: japan-korea@niccho-kyokai.jp

## 「三・一独立運動90周年記念のつどい」への賛同を呼びかけます

2008年12月15日

呼びかけ人

大日方純夫（早稲田大学文学学術院教授）	畑田 重夫（国際政治学者）
佐藤 光雄（日本平和委員会代表理事）	松井 繁明（自由法曹団団長）
大黒 作治（全国労働組合総連合議長）	柳沢 遊（慶応義塾大学教授）
高田 公子（新日本婦人の会会長）	山口 啓二（東京大学、名古屋大学元教授）
長尾 光之（日本中国友好協会会長）	山田 朗（歴史教育者協議会委員長）
西野瑠美子（わたちの戦争と平和資料館前館長）	渡辺 貢（日朝協会会長）

第一次大戦後の、民族独立を求める世界的な動きの中で、1919年3月1日に、ソウルなどで知識人らが「独立宣言」を読み上げ、朝鮮全土で民衆が「独立万歳」を叫ぶ大衆運動がくりひろげられました。日本の植民地支配からの解放を求めて運動に立ちあがった民衆に対して、日本の植民地当局が取った態度は虐殺を含む過酷な弾圧でした。

三・一独立運動と呼ばれるこの運動から丁度90年の節目の年を迎えるにあたり、わたしたちは、90周年記念行事の開催を呼びかけるものです。

植民地支配の実態と先駆的な人々の国際連帯の歴史に学び、日本国憲法をアジアの歴史の中に位置付け、さらに朝鮮半島の非核化と、過去の清算と懸案事項の解決をともなう日朝国交正常化を展望することが、平和な北東アジアを構築していく今日的課題を取組む上で重要と考えます。

平和、民主主義、生活向上と社会進歩のため日頃ご活躍されている幅広い団体、人士による賛同人のご参加ご協力による国民的な行事として、2009年3月1日（日）に別紙ご案内の通り東京都内で三・一独立運動90周年記念のつどいを開催いたします。

趣旨にご賛同くださり、成功のためのお力添えをいただきたく心から呼びかけます。

事務局団体：日 朝 協 会

〒101-0061 東京都千代田区三崎町2-11-13-501

電話 03(3237)1991 FAX 03(3230)2382

郵便振替 00180-7-18851 日朝協会事務局

Eメール [japan-korea@niccho-kyokai.jp](mailto:japan-korea@niccho-kyokai.jp)